



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイトでも
ご覧ください。

全国学力・学習状況調査の結果報告

令和7年4月17日に6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」について、調査結果から分析と今後の対応策をまとめましたのでご報告いたします。

(1) 各教科の学習状況調査の結果より

分類	区分	平均正答率(%)			分析と今後の対応策		
		本校	東京都	全国			
国語	全体		78	70	66.8	全国11.2%・東京都8%平均を上回りました。また、分類の学習指導要領の内容・評価の観点・問題形式の全ての区分において、全国・東京都の平均を上回りました。 本校では令和5年度から朝の時間、読書タイムを設定しています。また、年間3回読書旬間を実施し、読書活動の推進を図ってきました。 各教科等においては、意図的にペアやグループ活動を取り入れ、自分の思いや考えを伝え合う場面を設定しています。今後も、言語活動の充実に回り、国語力(考える力・感じる力・想像する力・表す力)の育成に努めます。	
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	85.5	77.9		76.9
			(2)情報の扱い方に関する事項	78.3	66.9		63.1
			(3)我が国の言語文化に関する事項	90.4	83.8		81.2
	評価の観点	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	73.5	69.9		66.3
			B 書くこと	83.9	72.4		69.5
			C 読むこと	69.9	61.0		57.5
	問題形式	知識・技能	知識・技能	84.9	76.6		74.5
			思考・判断・表現	75.2	67.1		63.8
			主体的に学習に取り組む態度				
問題形式	思考・判断・表現	選択式	75.9	68.7	64.7		
		短答式	87.6	80.0	78.5		
		記述式	72.9	59.3	58.8		
算数	全体		75	64	58	全国17%・東京都11%平均を上回りました。また、分類の学習指導要領の内容・評価の観点・問題形式の全ての区分において、全国・東京都の平均を上回りました。 本校では、3年生以上習熟度別指導を行い、児童の習熟の程度に応じた学習内容を考え、指導しています。また、よりきめ細やかな指導体制を確立するために学力向上支援講師も活用しています。低学年においても3名の講師を配置し個別最適な学習の実現を図っています。	
	学習指導要領の領域	知識・技能	A 数と計算	77.9	68.3		62.3
			B 図形	75.3	61.2		56.2
			C 測定	74.7	60.5		54.8
			C 変化と関係	76.7	64.9		57.5
			D データの活用	79.0	67.6		62.6
	評価の観点	思考・判断・表現	知識・技能	81.4	70.9		65.5
			思考・判断・表現	67.5	54.4		48.3
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	思考・判断・表現	選択式	83.3	73.5		67.2
短答式			79.9	69.3	64.0		
記述式			56.3	40.7	34.9		
理科	全体		72	60	57.1	全国14.9%・東京都12%平均を上回りました。また、分類の学習指導要領の内容・評価の観点・問題形式の全ての区分において、全国・東京都の平均を上回りました。 本校の5・6年生(4年生の一部も含む)は、専門性の高い理科教員が指導にあたっています。問題解決型の学習を通して自分なりの根拠のある予想や多面的に思考する力の育成、実感に伴った理解など努めます。また、全国的に理科離れが課題としてあがります。興味・関心がわく導入、ICT機器を活用した授業展開など今後も創意工夫に満ちた学習に努めます。	
	学習指導要領の区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	66.0	49.9		46.7
			「粒子」を柱とする領域	66.9	53.7		51.4
		B 区分	「生命」を柱とする領域	66.0	54.1		52.0
			「地球」を柱とする領域	82.1	69.1		66.7
	評価の観点	知識・技能	知識・技能	72.1	57.7		55.3
			思考・判断・表現	72.2	61.2		58.7
			主体的に学習に取り組む態度				
	問題形式	思考・判断・表現	選択式	73.6	57.9		54.7
			短答式	74.7	70.6		69.7
記述式			59.0	46.6	45.2		

(2)児童質問紙の結果より(一部抜粋)

○学校に行くのは楽しいと思えますか。

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい うと そう思わない	そう 思わない
	本校	48.0	42.7	6.7
東京都	50.6	35.5	9.1	4.7
全国	49.9	36.6	9.1	4.3

肯定的な回答は90.7%と多くの児童が楽しく学校生活を過ごしていることが分かります。一方、「そう思わない」「思わない」と回答した児童が9.4%(7人)います。児童の様子に注視し傾聴することで、なにが原因になっているのかを把握するとともに、学校と家庭の連携を図ります。そして、全ての児童が笑顔輝く学校を目指します。

○読書は好きですか。

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい うと そう思わない	そう 思わない
	本校	58.7	22.7	12.0
東京都	39.4	31.6	17.7	11.2
全国	36.4	33.3	18.5	11.7

肯定的な回答が91.4%と、東京都の平均よりも10.4%上回りました。本校の特色ある教育活動の一つに朝読書の充実があります。その他、読書旬間や読み聞かせボランティア「よむよむ」の皆様の活動が児童の読書好きに繋がっています。読書は、読解力や論理的な思考力、集中力など様々な効果があります。引き続き推進しています。

○友達関係に満足していますか

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい うと そう思わない	そう 思わない
	本校	57.3	34.7	5.3
東京都	61.4	29.1	7.1	2.3
全国	64.2	27.5	6.2	2.0

肯定的な回答は92%でした。友達関係の満足度が学校生活に大きく関係することは言うまでもありません。本校は、毎月「生活アンケート」を実施し、児童の不安や悩みなどを早期に把握できるようにしています。今後も児童に寄り添った指導を重ね、良好な友達関係が気付けるよう努めます。

○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい うと そう思わない	そう 思わない
	本校	70.7	26.7	1.3
東京都	78.5	17.9	2.6	0.9
全国	81.4	15.8	2.1	0.7

肯定的な回答が97.4%とかなり高い意識をもっていることが分かります。本校では、「自分を大切に他の人を大切に」を合い言葉として人権感覚の醸成に努めています。また、今年度からは「人権を基盤とした授業」を全ての学級で実施し、全校で人権感覚を高める指導を行いました。さらに教育活動全般において指導の徹底を図ります。

○国語の勉強は好きですか。

	好き	どちらかと いえば好き	どちらかとい うと 好きではない	好きで はない
	本校	25.3	30.7	28.0
東京都	26.9	32.0	25.5	15.4
全国	24.1	34.2	26.7	14.8

○算数の勉強は好きですか。

	好き	どちらかと いえば好き	どちらかとい うと 好きではない	好きで はない
	本校	53.3	21.3	16.0
東京都	37.4	24.4	19.9	18.2
全国	33.7	24.2	21.5	20.6

○理科の勉強は好きですか。

	好き	どちらかと いえば好き	どちらかとい うと 好きではない	好きで はない
	本校	73.3	21.3	4.0
東京都	49.7	28.5	13.2	8.4
全国	51.7	28.4	12.4	7.4

肯定的な回答が国語では56%、算数では74.6%、理科は94.6%でした。勉強の好き嫌いは、「わかる・できる楽しさ」「友達と一緒に学ぶ楽しさ」「課題に挑戦する・探究する楽しさ」などがあると考えます。学力の面では、高い成果を上げているにもかかわらず、特に国語においては肯定的な回答が低い結果となりました。児童が学ぶ楽しさを実感できるよう、教師側の研修を深めていく必要性を感じています。各教科等の学習や特別活動において、胸を膨らませ、楽しさを実感できる教育活動を目指してまいります。

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分より 少ない	全くしない
	本校	30.7	5.3	8.0	14.7	33.3
東京都	19.2	6.1	9.2	19.8	29.2	16.3
全国	7.4	4.4	9.7	25.6	35.2	17.5

家庭学習の時間の目安は「10分×学年」と言われています。今年度の結果は、1時間以上家庭学習に取り組んでいる児童の割合は4割となりました。また、十分に行っている(3時間以上)の割合と30分未満の割合の数値が近く二極化が顕著に見られました。学ぶ習慣が身に付くと、中学・高校…そして生涯学習の下地になります。今回の調査結果を保護者の皆様と共有を図るとともに、児童一人一人に家庭学習の重要性を再度伝えていきたいと考えます。